

章	ページ	行	誤	正	備考
4.4.4	227	表-4.4.1	凝結試験のJIS規格 JIS R5201「セメントの物理試験方法」	凝結試験のJIS規格 JIS A1147「コンクリートの凝結時間試験方法」	平成20年2月26日訂正
3.5.4	133	表-3.5.9	円柱面と円柱面 $\alpha \leq 1.02$ 球面と球面 $\alpha \leq 1.01$ $(\alpha = r_1/r_2)$	円柱面と円柱面 $\alpha \geq 1.02$ 球面と球面 $\alpha \geq 1.01$ $(\alpha = r_1/r_2)$	平成23年2月7日訂正
5.6	266	表-5.6.1	支承中心間隔(橋軸直角方向) 注3) 鋼橋 $4+0.5(B-2)$ mm	支承中心間隔(橋軸直角方向) 注3) 鋼橋 $\pm(4+0.5(B-2))$ mm	平成25年6月11日追加 第7刷で訂正予定
5.6	268	表-5.6.2	支承中心間隔(橋軸直角方向) 注3) 鋼橋 $4+0.5(B-2)$ mm	支承中心間隔(橋軸直角方向) 注3) 鋼橋 $\pm(4+0.5(B-2))$ mm	平成25年6月11日追加 第7刷で訂正予定

道路橋支承便覧（平成16年4月） 訂正一覧

章	ページ	行	内 容	修 正	備考																																		
委員会名簿	7		今井 幸一	今村 幸一																																			
目次	3.6.3		154	174																																			
目次	12		5.2 下部 工事 の施工	5.2 下部 構造 の施工																																			
目次	15		5.3 上部 工事 の施工	5.3 上部 構造 の施工																																			
2.2	11	5	水平 変位 機能	水平 移動 機能																																			
2.3	20	下から2, 3	非常に速度の 小さい 変位に対しては	非常に速度の 遅い 変位に対しては																																			
2.4	26	下から2	力の伝達も明快	力の伝達も 明解																																			
2.4	27	10	それぞれの構造体は比較的単純で小型の ものとなり ,	それぞれの構造体は比較的単純で小型の ものとなり ,																																			
2.4	27	12	鉛直方向力支持機能, 水平方向力支持機能	鉛直力支持機能, 水平力支持機能																																			
2.8	61	4	支承の取替え	支承の 取り 替え																																			
3.4	111	5	3.4.4(2)	3.4.5(2)																																			
3.5	120	13	(平均) 応力振幅を 厳しくした 一定せん断状態	(平均) 応力振幅を 厳しくした 一定せん断状態																																			
3.5	125	6	なお, ・・活荷重の偏載荷や風荷重により・・	なお, ・・活荷重の偏載荷 や風荷重 により・・																																			
3.5	126	表3.5.2 注	~の許容応力度は表-3.2.3を参照のこと	~の許容応力度は表-3.5.3を参照のこと																																			
3.5	130	表-3.5.6	注)直径・・・・までとする。 ¹⁾	注)直径 ・・・・ までとする。 ¹⁾																																			
3.5	130	表-3.5.6	2)異形棒鋼	2)異形棒鋼 ¹⁾																																			
3.5	134	表-3.5.10	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">ヘルツの許容 支圧応力度</th> <th rowspan="2">適用材料</th> <th colspan="2">許容荷重係数</th> </tr> <tr> <th>K₁</th> <th>K₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼と鋼の接触</td> <td>19000</td> <td>C13B</td> <td>26.64(26)</td> <td>981(980)</td> </tr> <tr> <td>ヤング係数</td> <td>21500</td> <td>SNCM439 SNCM447</td> <td>38.5(38)</td> <td>1257(1250)</td> </tr> </tbody> </table>		ヘルツの許容 支圧応力度	適用材料	許容荷重係数		K ₁	K ₂	鋼と鋼の接触	19000	C13B	26.64(26)	981(980)	ヤング係数	21500	SNCM439 SNCM447	38.5(38)	1257(1250)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">ヘルツの許容 支圧応力度</th> <th rowspan="2">適用材料</th> <th colspan="2">許容荷重係数</th> </tr> <tr> <th>K₁</th> <th>K₂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼と鋼の接触</td> <td>1900</td> <td>C13B</td> <td>2.71(2.7)</td> <td>100(100)</td> </tr> <tr> <td>ヤング係数</td> <td>2150</td> <td>SNCM439 SNCM447</td> <td>3.92(3.9)</td> <td>128.2(128)</td> </tr> </tbody> </table>		ヘルツの許容 支圧応力度	適用材料	許容荷重係数		K ₁	K ₂	鋼と鋼の接触	1900	C13B	2.71(2.7)	100(100)	ヤング係数	2150	SNCM439 SNCM447	3.92(3.9)	128.2(128)	
	ヘルツの許容 支圧応力度	適用材料	許容荷重係数																																				
			K ₁	K ₂																																			
鋼と鋼の接触	19000	C13B	26.64(26)	981(980)																																			
ヤング係数	21500	SNCM439 SNCM447	38.5(38)	1257(1250)																																			
	ヘルツの許容 支圧応力度	適用材料	許容荷重係数																																				
			K ₁	K ₂																																			
鋼と鋼の接触	1900	C13B	2.71(2.7)	100(100)																																			
ヤング係数	2150	SNCM439 SNCM447	3.92(3.9)	128.2(128)																																			
3.5	135	4	なお, 表-3.5.1に示すゴム支承の許容値は割増しない。	なお, 表-3.5.1に示す 圧縮応力度を除く ゴム支承の許容値は割増しない。																																			
3.6	143	図3.6.3	t _s の横にある t	t _s の横にある t は 不要																																			
3.6	160	図-3.6.16	y _l , y _u	y _l , y _u (添え字)																																			
3.6	161	図-3.6.17	p ₀	p ₀ (添え字)																																			
3.6	174	11	その偏心量が過大になると、取付けに引張力が生じる。	その偏心量が過大になると、取付け 部 に引張力が生じる。																																			
3.6	179	図-3.6.32	d	d																																			
3.7	185	図3.7.2	補強リブの取付け例	けた下空間の確保																																			
4.2	198	3	最大反力 (R _{max} =R ₁) に相当する~	最大反力 (R _{max} =R) に相当する~																																			
4.2	202	4	製造会社ごとに定期的に行うのがよい。	製造会社ごとに 供試体により 定期的に行うのがよい。																																			
4.2	214	表-4.2.12	加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの硬さ試験 JIS K 6253	加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの硬さ試験 JIS K 6254																																			
4.2	217	20	高濃度亜鉛未塗装(ZRC, R-パル)などの特殊処理があるが、	高濃度亜鉛未塗装(ZRC, R-パル)などの特殊処理があるが、																																			
4.2	219	表4.2.15	b	b ^{注4)}																																			
4.2	219	表4.2.15	~ 載荷し 外観 iに異状の	~ 載荷し 外観 に異状の																																			
4.6	230	表4.6.1	限界性能 ^{注1)}	限界性能 ^{注1)}																																			
5.1	234	図-5.1.3	施工手順及び 構造 範囲区分	施工手順及び 施工 範囲区分																																			
5.1	235	図-5.1.4	施工手順及び 構造 範囲区分	施工手順及び 施工 範囲区分																																			
5.2	239	1	2) Hが100~150mmの場合は	2) hが100~150mmの場合は																																			
5.2	239	図-5.2.3	箱抜き修正図 (100 < H < 150mm)	箱抜き修正図 (100 < h < 150mm)																																			
5.2	239	図-5.2.3	H 30	h 30																																			
5.4	251	10	1) 下部構造の 施工 において 施工 される箱抜きは、	1) 下部構造の 施工 の アンカーボルト の箱抜きは、																																			
5.4	254	5	ゴム支承には最大±4mm程度の高さ誤差が	支承には表-4.2.7, 表-4.3.5に示す高さ誤差が																																			
5.4	260	下から3	防錆処理を行う。(防錆材の充填, 溶融亜鉛めっき処理)	防錆処理を行う。(防錆材の充填 や 溶融亜鉛めっき処理)																																			
5.6	268	表-5.6.2	下沓の水平度 1/100	下沓の水平度 1/100																																			
参3	315	表-参3.3	変位制限構造のタイプB曲線橋の備考欄 ・交角の 小さい 曲線橋は省略可能	変位制限構造のタイプB曲線橋の備考欄 →交角の 小さい 曲線橋は省略可能																																			
参6	349	図-参6.2	NB G10の等価減衰定数	NR G10の等価減衰定数																																			
参11	389	表-参11.2備	鋼板降伏強度比 y=235 u=400	鋼板降伏強度比 y=235 u=400																																			
参13	403	図-参13.2	実測値の分布(リングプレートタイプLRB, HDR)	実測値の分布(リングプレートタイプ, LRB,																																			
索引	437	【さ】3	座沓安定性	座 屈 安定性																																			

道路橋支承便覧（平成16年4月版）第3刷の訂正について
 第3刷にのみ、印刷のミスにより、化け字の箇所がありましたので訂正させて
 頂きます。

箇 所	訂 正 後
P111 下から5行目	$\Delta l\alpha$ を考慮し
P111 下から4行目	$\Delta l\alpha =$
P239 下から5および6行目	$X_1 = \frac{H_2}{\tau_{ms} B_2} \geq 250\text{mm}$ $X_2 = \frac{H_1}{\tau_{ms} B_1} \geq 250\text{mm}$
P315 表-参3.3 設計移動量、設定長さの最小	$(0.005\phi + 0.7) \frac{\sin\phi}{\cos(\phi/2)} + 0.3$
P315 表-参3.3 支承部-タイプ B、 橋梁形態-曲線橋	$\frac{115}{\phi} \frac{1 - \cos\phi}{1 + \cos\phi} > b/L$

平成18年5月